

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association



海外宣教連絡協力会

広報 No.63号

リソースの共有化を！

JOMA 役員 福井 誠
日本バプテスト教会連合 世界宣教部

6月に開かれた、JOMAのこれからを考える有志の会に出席しながら、二つのことを考えさせられました。一つは、日本の諸教会に対する世界宣教への啓発のためにJOMAは、何ができるかということ。そして、JOMAに加盟する団体が、お互いの強みを分かち合い、宣教のパフォーマンスを最大化するために、どのようなシステム構築が必要か、ということです。

日本は宣教の難しい国であり、かつてよりも一層宣教の難しさを感じる昨今、成果が上がらないということで、海外から来る宣教師も減少していると言われます。『イノベーション普及学』の著者であるロジャーズによれば、新しい商品や知識など物事が普及していくプロセスには、「16%の論理」があるそうです。つまり、普及率が16%を超えた段階で、急激に物事は普及拡大していき、その流行が周知されるようになる、というわけです。そのような理論からすれば、日本の宣教事情はリバイバルの起爆点にほど近いところにあると言わねばなりません。

そのような状況で、世界宣教への啓発を語るというのは、何か、足下を見ていない気すらしてなりません。しかし、よく言われる使徒の働き、エルサレムからユダヤ・サマリヤ、そして地の果てまでという順序性は、実際の宣教の軌跡でありモデルであったとしても、まず世界的な宣教の視野を持たずには起こりえぬ

ことでした。つまり、日本から世界へと順に目を向けさせるように啓発するのではなくして、世界の広がりの中で日本を初めどの地域での働きにも携わっていく意識を啓発していくことの方が重要ではないかと思うのです。



数年前、私はある海外日本人教会の牧師招聘の問題にかかわり、日本の神学校教育を受けただけでは、海外の日本人の様々なニーズに応える働きには対処が難しいという、きわめて現実的な問題を考えさせられました。また、インドシナ半島での宣教の働きにかかわり、カンボジア、マレーシア、タイ、ベトナムと国境を越えて宣教に携わるあり方に触れ、果たして日本の神学校教育がどこまでこのような多文化的なリーダーシップの働きに従事しうる人材育成に寄与しているのかと、と考えさせられるところがありました。

日本の神学校教育は、海外仕様ではないと言ってしまうとそれまでですが、実際には、国内仕様としての教育として見ても、その不十分さが指摘され始めているところがあります。確かに、神学校を卒業し、送り出される働き人に、教会の一部門の責任を担える人材は見つけ得ても、一教会の働きを担い、忍耐と工夫をもって教会を完成させていくだけに訓練された人材を見つけるのはなかなか難しいことです。

日本という狭い箱庭の中から外を覗くのではなく、境界なき世界の中の日本という文脈で働いていくことを語っていくことが、世界宣教に携わる人材を起こす真の動機付けとなっていくように思います。



また、JOMA に加盟することの意義が再考される必要があります。名簿に登録されるだけではなく、その協力関係がいつそう活性化される必要があろうかと思えます。つまり、各団体が持っている専門的知識や技能を共有し、JOMA 加盟の個々の団体のパフォーマンスをいかに向上していくかが考えられなくてはなりません。

やはり、諸団体の持つノウハウにでこぼこがあるのは否めず、はっきり言って、私どもの団体が持つ蓄積もそれほど多くはありませんでした。ですから、これまで現場で起こる問題については、22カ国に宣教師を派遣しノウハウを積み上げている、米国の姉妹団体の助けを借りることが多かったわけです。しかしながら、JOMA に加盟してからは、それ以上に活用するリソースがあることを感じており、これは各

団体も同じことであると思います。ただ、危機管理、宣教師のメンタリング、ヘルスケア、さらには現場の宣教協力などについて、JOMA 加盟団体それぞれが持つリソースが最大限にシェアされ、福音宣教の拡大のために、互いのパフォーマンスを高めあう仕組みはまだできていないのではないのでしょうか。各リソースへのアクセスを容易にするためのデータ提供と整理をなしていくことがこれからの課題であると思われれます。現実的には、いつでもどこでも利用できるインターネット環境の中にそれらが構築されていくことが期待されることでしょうか。

ともあれ、世界の広がりの中で、日本の宣教も海外の宣教をも考えていく、そして、福音宣教が、日本においても、世界においても、大いに進むことを期待するものです。



2009 年度 JOMA 総会報告

4月21日(火)に日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団中央聖書教会で、17加盟団体の14団体の出席で、総会を開くことができました。今回趙南洙先生が、日本福音同盟(JEA)宣教委員会を代表して総会に出席してくださいました。これは、JEAとJOMAとが、世界宣教の働きを共に協力し進めていこうとしている祈りの印であることを覚え、主に感謝しました。今年の総会では、日本センド派遣会の加盟が承認されました。さらに多くの団体が加盟することによって、様々な人的・知的・物的資源を共有でき、より豊かに世界宣教に各団体が奉仕できることを祈り求めています。

各宣教師を祈り支える働きの拡大と充実のため、JOMA 宣教カレンダー(A4版)が用いられてきました。今年度は、A4版のものと共に、以前2年ごとに作っていた大型宣教地図(B2)を新しく作ることにしました。無料でなく注文実費での配布という形になります。今年の具体的な活動は、J+Passion大会での分科会奉仕、プロテスタント宣教150周年記念大会でのブース設置、第5回日本宣教会議での分科会企画参加等です。世界的な動きでは、2010年にケーパタウンで第3回ローザンヌ世界宣教大会が開かれる予定ですが、JOMAからの代表として永井敏夫師が承認されました。

JOMA 総会前の宣教セミナーでは、松崎ひかり氏を講師に、「日本発の世界宣教をめざして」というテーマの下に、発題とグループ討議を持ちました。西洋等の宣教団体に比べると、日本の宣教団体は小さく力もないように見えるけれども、日本の教会であるがゆえにできることがある、それをどのように協力し合って行えるかという視点で語り合いました。特に危機管理、医療・メンタルケアのあり方、人材の発掘と育成、諸教会への働きかけ方、様々な情報の提供と共有、世界宣教に関わる様々な集会・ツアー企画等の項目について良き意見が出されました。これらを実行に移すためには、様々な人材・準備・費用等が必要です。JOMAの働きが徐々に発展してゆけるようにお祈り下さい。グループ討議の内容がまとめられていますので、知りたい方はJOMA事務局に問い合わせ下さい。

有志の会懇談会の報告

今年の総会時に、今後のJOMA活動についてのビジョンを分かち合う有志の会の企画が提案されました。6月4日(木)午前10時~12時まで、御茶ノ水のKGK事務所をお借りして持ちました。残念ながら、役員4名の他に一人という参加者でありましたが、今後の活動について様々な考え、意見を話し合うことができました。JOMAの活動目的の一つは、世界宣教の重荷をより多くの諸教会・キリスト者の方々に知っていただき、また担っていただくこと(一般啓発)と、既に宣教師となる召命を既に与えられている方々への導き・準備・教育・ケアに関わる情報を提供すること(特殊啓発)があります。この二つの柱を強化するために、現在のメンバーで何ができるか考えました。この懇談会後のJOMA役員会で、有志会で話されたことを基に3つの領域について可能性を探ろうということになりました。

- ①既存のクリスチャン・メディアを用いて、一般啓発の働きをさらに進める。
- ②インターネットを用いて様々な情報収集・提供して、特殊啓発に役立ててもらう。
- ③大都市における宣教大会の開催が多いので、小都市地域の牧師会等との連携を促進し世界宣教セミナー等の企画を試み、それによって一般啓発の働きを進めていきたい。

これらのことを実行するにしても、役員4人ではなかなか事を進めることが出来ません。世界宣教に使命を覚えられられる方々のボランティア的な働きの必要性を強く感じています。この記事を読まれ、主から何か行動を起こすべく導かれる方がおられましたら、是非JOMA事務局にご連絡下さい。また、今後とも有志会のような会を開き、JOMAの働きに直接的に参加して下さる方々のネットワークを広げたいと願っています。どんな小さな意見・ビジョンでもご連絡いただけますと感謝です。

世界の地域特集 7 東南アジア

ベトナムの福音宣教 -これまでとこれから-

1975年以来ベトナムは社会主義体制の中にある。しかし街を見るかぎり資本主義国と変わらないか、もっと活気がある。店は物と客で溢れ、通りは携帯電話とPCを手にした若者の乗ったバイクでいっぱいである。また、法律の上で信教の自由がうたわれており、仏教が人口の80%以上。実際は迷信信仰、アニミズム信仰のように見える。カトリック12%、プロテスタント2%くらいであろう。カトリック訳とプロテスタント訳の聖書が国内で印刷・販売されている。信教の自由があると言われるが、現実には制限がある。例えば、「宗教活動」は宗教活動施設として政府に認められた建物の中で原則行う。集会は地域役所に申請し、許可を得る必要がある。日本で通常なされる宣伝はできない。



ベトナムには54の民族がいる。日本人がベトナム人として思い浮かべるのがK族で、全人口約8600万人の86%以上、主な平野部は彼らが占める。おおまかにプロテスタント人口の半分がK族、残り半分が他の53少数民族である。人口の半数以上がクリスチャンの民族もあれば、クリスチャンが全く確認されていない民族もある。

2003年頃から「家の教会」に政府の認可が降り始めた。05年頃から政府の許可を得て発行された信仰書が目につくようになった。07年のクリスマスには、ホーチミン市のサッカー場で1万人規模の大集会が認可を得てもたれ、その後もイースターとクリスマスに大集会がもたれている。他の地方でも、大集会がもたれるようになった。以前のような迫害の時期は過ぎ去ったと言える。



見方を変えれば、ベトナムは新しい信仰の戦いの時期にきた。

ある牧師から聞いた話を要約的にご紹介する。彼は1960年代に福音を信じた。75年以降も、迫害の中、福音を語り続けた。道端で子どもたちに、強制労働所で労働者たちに。迫害が多い時代ほど、人がよく福音を信じた。今では取締りがなくなったが、人が信じなくなった。



彼によれば伝道は証しと生活。しきたりからの解放。物質に依存しない豊かさ。喜び、感謝、愛のあふれた生活。福音は霊的解放、魂の救い。物質的な貧困の中で、イエス様を信じ、主の権威、栄光を拝しながら生きる。その姿が証しとなり、他の人に信じる気持ちを起こさせる。その人が決心する時には、信仰には犠牲が伴うことを聖書が語っていることを教える。その犠牲を支払うことができないなら、その信仰は本物ではない。

正しいことをして、悪く言われ困難に投げ込まれるのは辛い。しかしその時に本当に何に従っているかが、外に表われる。お金のための信仰であればすぐに止める。真理に生きているなら決して捨てることはない。その姿が一番力がある。妨害者にとっては、それが一番恐ろしい。

彼の言葉には、本当の戦いを知っている者の重みがあった。

物質的豊かさとは迫害のない環境、それがベトナムのこれからの戦場である。



ミャンマー孤児院支援 —世界宣教の一つの形—

人口5300万人に対して僧侶の数が50万人以上という仏教国ミャンマー。社会保障制度が整備されていないこの国では、孤児が出ると普通はお寺に預けられ、托鉢で生活する僧侶となる。しかし、身近に出た孤児を牧師夫婦が教会で引き取り、家族として養ううちに孤児が増えて孤児院となっていくケースがある。収入のあても無く、人々の善意と献金による生活は非常に厳しいのが現状。

私たちは7年前から現地オフィスと連携し、本当に支援を必要としている孤児院に対して、やがて自給自足体制を確立し、外部からの支援無しに自立できる段階にもっていけるよう、経済的・物質的支援をしています。現在8箇所の孤児院を対象として、毎月の経済的支援の他、日本から参加者を募って年2回のペースで支援物資を持って訪問。子供たちと交流を持っています。

E 孤児院

2004年に支援を始めた当初、ここでは狭い平屋の建物に30人の子供たちがボロボロの服を着て生活していました。浅い井戸からは濁った水しか出ず、水槽に蓄えた泥水の上澄みが生活用水でした。

私たちの団体の支援対象となり数年後、寄せられた献金でレンガ造りのしっかりとした二階建ての建物が建ち、電気も引かれ、揚水ポンプと給水塔、浄水器も設置され、台所で蛇口をひねれば飲める水が出るようにもなりました。この貧しい村の中では一番立派な建物となりました。



クリスチャンの孤児たちは村では偏見の目で見られ、石を投げられて追い払われたり、いじめを受けていました。しかし2008年5月2日、国内で13万人を超える犠牲者を出したサイクロンがヤンゴンを襲い、この村でも35家族が家を失いました。サイクロンが襲ったのは真夜中。暴風雨で次々と家の屋根が飛び、壁が倒れる中、住民が避難してきたのは村の中で唯一頑丈なこの孤児院。日頃孤児たちをいじめていた人たちですから、夜中に助けを求めて来た時には罰の悪そうな顔をしていました。しかしそんな彼らを孤児たちは喜んで迎え入れました。サイクロン直後には家を失った村人たち70人が孤児院で避難生活を送りました。

サイクロンの後すぐに現地オフィスは孤児院を拠点に村での救援物資の配給を始め、孤児たちの



手によって村の人たちにお米やビニールシートが手渡されました。飲み水の無くなったこの村で、孤児院の給水塔と浄水器は千人あまりの村人に水を供給しました。5月末にようやく外国人にビザが発給されるようになり、すぐに私たちも日本から駆けつけました。孤児院近くの空き地では、家を失った28家族145人がテント生活をしていました。現地人スタッフ、孤児院の牧師、村のリーダーを交えて協議し、孤児院を通して、家を失った人全員の家の再建を日本からの献金で援助することになりました。

その3ヵ月後、8月にこの孤児院を訪問し、牧師と共に村を歩きながら、再建された家を見て回りました。驚いたのは、再建された家の人たちだけでなく、村の多くの人たちが私たちを見て笑顔で声をかけてきたこと。村の多くの人たちがこの孤児院を通してお米や水を手に入れることが出来た、そのことを感謝しています。国もお寺も何もしてくれなかった、でも、クリスチャンは宗教の別無くみんなを助けてくれた、と話してくれました。村の人たちの孤児たちに対する態度、教会に対する見方が大きく変わったのです。この孤児院を通して主が大きな働きをしておられるのを見て、私たちも喜んでます。

孤児院から広がる福音

私たちが支援している孤児院の子供たちは、成長して孤児院を出るとその多くが伝道者になっていきます。7年間支援を続けていると、年上の子の姿が見えなくなっていきます。あの子はどうしてるの？と聞くと、神学校を出てあの村で教会開拓をしている、あの教会で伝道師をしている、と答えが返ってきます。孤児院訪問で子供たちに「将来の夢は？」と聞くと、先生、お医者さん、といった声と共に、半数以上が「伝道者になりたい！」と答えます。多くの伝道者が育成され、福音が広がっている。孤児院支援という形を通して、この国での福音宣教に携わることができるのです。

ミャンマー連邦 -The Union of Myanmar-

私たちがミャンマーに遣わされてから、もう6年が経ちました。ミャンマーは今でも軍事独裁政権で、キリスト教会は迫害を受けています。仏教が90%で、経済的にも貧困の中にあります。気候は暑くて、40度を越すこともあり、マラリヤなどの病気もあります。ミャンマーに来たばかりのとき、私たちはミャンマーの言葉も文化も全く知らず、その時息子は、生まれて5ヶ月たったばかりの赤ちゃんでした。「一体どうしたらいいんだろうか・・・」私たちは祈りました。しかし主は、そんな私たちのために、全てを備えて下さいました。ビザが与えられ、迫害からも守られました。現地人の協力教会が与えられ、言葉や文化も教えてもらいました。経済的必要性も奇跡的に満たされました。赤ちゃんがいることで、周りの人とすぐに親しくなれて、そこから伝道の門が開かれていったのです。



最初から、私たちは若者、特に大学生を対象として伝道をしてきました。しかし、2007年9月にデモが起り、政治情勢が悪化して、大学構内での集会ができなくなってしまいました。家の外にも出られず、「こんな状態で、宣教なんてできるんだろうか」と思えるような、不安な日々が続きました。しかしその後、主は、私たちが全く考えもしなかった、新しい門を開いて下さいました。現地人教会の子ども達が、私の家庭集会に来るようになったのです。そして、



現地人教会で始めた日本語教室を通して、仏教徒だった20歳の青年が救われ、洗礼を受けました。この国に来て5年たって、初めての受洗者でした。その後、1人の17歳のクリスチャン青年が、私の家に住み込みで弟子訓練を受けるようになりました。今後は、このような寮での共同体生活を通して、主の弟子を育て、全国に派遣していく働きをしていきたいと願っています。ミャンマーの将来は、このような若い献身者を育て、働き人として立たせることにかかっているのです。これからも、ふさわしい青年献身者が次々と与えられるように祈ってください。



ミャンマーでは、デモが起きたり、サイクロン（暴風雨）による大きな自然災害があったりして、大変なときもありました。しかし、主はいつも私たち一家を守り、導き、あわれみをもって助けの手をのびし、力を与えて下さいました。そして、今までたくさんのすばらしい協力者、祈って支えて下さる宣教のパートナーたちとの出会いを与えて下さいました。本当に、今の私たちがいるのは、主と、主にある協力者たちのおかげです。心から感謝します。これからも、この国のためにお祈りください。ミャンマーに、イエス・キリストの愛と救いが伝えられて、神の御国が広がっていくように、ぜひ祈り続けて下さい。



タイ - AISタイ国の働き

福間庸平 (日本バプテスト教会連合)

私は日本バプテスト教会連合からアンバサダーズ・イン・スポーツ (AIS) の宣教師としてタイのチェンマイで働きをしております。AISは主にサッカーを通して青少年に伝道する国際的な宣教団体です。サッカーを用いて世界中の人々にイエス・キリストの福音を述べ伝えることを使命としています。現在、AISはタイのチェンマイを活動拠点として、その周辺国のカンボジア、マレーシア、他周辺諸国にまで宣教活動を広げる予定です。

私たちのビジョンは、東南アジアのクリスチャンが最も効果的な方法で自国の人々に福音を伝えることができるようにサポートし訓練をすることであり、そこから多くの失われた魂が救われることです。

私たちは、地域教会との協力で、スポーツを専門的に活用して伝道できるよう、青年リーダーたちを訓練して行きます。また、また孤児院では、子供のために必要な教育プログラムを学校や孤児院と協力して行います。他にも生活支援、聖書の学び、またタイで深刻な問題となっているエイズ (HIV) の教育を行っていきます。



加盟団体の声

チャーチ・オブ・ゴッド国外宣教部

宣教師派遣国メキシコから 新型インフルエンザ発生

4月に新型インフルエンザがメキシコで発生し、連日感染の拡大が報じられました。私たちはメキシコ第二の都市グアダハラに宣教師を派遣していますが、この病気の実態も現地での情報も少なく、ただただ祈るばかりでした。(詩篇91:3) 教会付属の学校は休校を余儀なくされましたが、諸集会は守られました。日本からマスクを送りましたが、これが休校明けの生徒たちに用いられ、お互いの絆が強められました。

イムマヌエル総合伝道団世界宣教局

イムマヌエル総合伝道団世界宣教局では、この夏、ケニアに8人の宣教訪問団を派遣し、現地の教会や学校、宣教師方との交流を深めて、帰国しました。「百聞は一見にしかず」ということわざのように、宣教地を訪問し、現地を体験し、人々と交わることは大きな祝福と信じて、毎年のように訪問団を送っています。また、台湾とボリビアから宣教師夫妻がこの夏に帰国し、各地の教会に招かれて、宣教報告や証しや説教の奉仕をしています。国内の教会において、世界宣教の重荷が増し加えられ、更に宣教の働きが前進することを期待しています。

在欧日本人宣教

10月23日(金)～24日(土)に、奥多摩福音の家で一泊リトリートを開きます。帰国者のケアに重荷のある方(ブリッジ・ビルダー)や、帰国者の方が共に集り励ましあうことを通して、さらにディアスポラ宣教の祝福を与えられ、それを通して主の世界宣教の一端を担わせていただきたいと願っています。参加希望者は、事務局に問い合わせ下さい。11月7日(土)午後2時から欧州日本人宣教祈祷会を持ちます。共に主のみ前で祈りましょう。

OM日本

2月19日、OMの新しい福音宣教船ロゴス・ホープ号が就航。デンマークからスウェーデンに向け処女航海に出ました。2004年に中古船を購入して船体の改造にかかりましたが、折しも全世界を襲った原油価格の高騰、鉄鋼価格の高騰、世界経済の悪化の影響をもろに受け、プロジェクトは大きな困難に直面。就航は当初の予定より何年も遅れてしまいました。しかし世界中の人々の祈りと支援、また何千人という作業ボランティアの奉仕によりついに活動を開始することが出来ました。現在、中南米に寄航中(www.logoshope.org)。日本人は3名が乗船しています。ドゥロス号、ロゴス・ホープ号の参加者は常に募集しています。お問い合わせはinfo@jp.om.orgまで！

日本ウィクリフ聖書翻訳協会

異文化宣教セミナー

～日本ウィクリフのプログラム～

2009年7月9日～11日まで、大阪府立少年自然の家で異文化宣教セミナー入門コース（西日本）を実施いたしました。関西や九州から、また留学中の一時帰国者も含め15名の参加者が与えられました。「自分が今いるところで、そしてこれから違わされるところで、今回の学びを活かしていきたい」という受講生の声に、スタッフ一同励まされました。

その他の今後のプログラムは以下の通りです。（また、これらのプログラムは例年ほぼ同時期に行っています。）

<2009年>

・2009年9月3日～5日

異文化宣教セミナー 入門コース（東日本）

・2009年9月6日～12日

異文化宣教セミナー 実践コース（東日本）

<2010年>

・2010年3月17日～31日

フィリピン宣教地体験旅行2010

・2010年7月8日～10日

異文化宣教セミナー 入門コース（西日本）

・2010年9月2日～4日

異文化宣教セミナー 入門コース（東日本）

・2010年9月5日～11日

異文化宣教セミナー 実践コース（東日本）

各プログラムのためにお祈りいただければ感謝です。

また、興味のある方は是非ご連絡ください。

日本ウィクリフ：電話 048-466-3730（担当：兼次）

2008年9月の日本ウィクリフ聖書翻訳協会の総会より、土井彰宣教師が総主事に就任しました。

土井彰・圭子宣教師夫妻は、東南アジアの宣教地で、アメリカ人の宣教師夫妻の携わっていたルワン語聖書翻訳プロジェクトに加わって奉仕していたことがあります。そのルワン語の新訳聖書が完成し、2005年の12月に新約聖書の献呈式が持たれました。その献呈式に纏わる村人の証、「開かれた聖書」を紹介します。

「開かれた聖書」



私たちが東南アジアの宣教地で働きを開始した時、初めの数年間、アメリカ人の宣教師夫妻が携わっていたルワン語の聖書翻訳プロジェクトに加わり、レティ方言を担当し、その調査をしました。

そのルワン語の聖書が完成し、2005年の12月に聖書の献呈式が持たれました。

献呈式のために村や教会の指導者達はいろいろなイベントを計画しました。村の中や教会を飾り、たくさんの時間を使って準備しました。でも、彼らは歴史に残るこの献呈式のために、なにかもっと特別で、献呈式の後も長く残るようなことをしたいと思いました。

それで、みんなが見ることができる教会の前庭に記念碑を作ることになりました。

「この記念碑の意味は」と尋ねると村人はこう言います。

「ずっと昔、19世紀の初めに、オランダ人の宣教師が最初に神の言葉を私たちの先祖にもたらした。何人かの人々は受け入れたが、彼らの生活は変わらなかった。その聖書は彼らにとっては閉ざされた本だったので、彼らの心は堅い

土井圭子（日本ウィクリフ聖書翻訳協会 メンバーケア担当主事）

まま、今までの伝統的な信仰を持ち続けて生活していた。聖書を読むことも出来ず、理解できなかったからだ。

でも、私たち、今の時代の人々は、自分たちの言葉に訳された聖書を受け取った。私たちの心に語りかける開かれた本だ。私たちは聖書の意味がわかるので喜んで読む。神に従い、私たちの生活は変えられていっている。」

自分達の言葉で聖書を読むと、意味がわかり、心に届きます。まさに開かれた聖書です。聖書の言葉を母語に翻訳することの大切さはここにあるのです。



【聖書ほんやく】No.227 2009年4月号「ちょこっとミッション」より抜粋
※「ちょこっとミッション」のコーナーは、ルビ付きで子供にもわかりやすいように書いた記事に掲載しています。



新規加盟団体の紹介

日本センド派遣会

私どもの団体は、先のJOMA総会において加盟を認めていただきました。先輩諸団体の仲間に加えていただき、心から感謝いたします。どうぞこれからよろしくをお願いします。

現在の理事長は高橋和義牧師（立川駅前キリスト教会）。理事は、神田英輔師（日本国際航鉄対策機構特命大使）、中城昭治兄（立川駅前キリスト教会会員）、林桂司牧師（青梅キリスト教会）、吉枝隆邦師（hi-ba スタッフ）、ジョンサン・リーズナー宣教師（SEND Japan）です。総主事として宮村武夫牧師（聖望キリスト教会協力牧師、センド国際宣教団宣教師）が立てられています。

日本センド派遣会は、1999年8月、センド国際宣教団（SEND International）の日本委員会として設立されました。センド国際宣教団のご説明が先になります。アジア、ヨーロッパ、アメリカ、他の地域に約500人の宣教師を派遣している超教派の宣教団体です。センド国際宣教団の宣教師たちは、教会の無いところに福音を伝えて新しく教会を形成する使命を持って活動していますが、それと関連させて神学教育、学生伝道、学校教育、指導者養成等、幅広い働きをしています。

センド国際宣教団は、先の世界大戦のすぐ後、日本とフィリピンで活動を開始しました。その頃は、極東福音十字軍（FEGC）という団体名称でした。その後、他の団体と合同し、宣教師派遣先も「極東」に限らない広い範囲になったので今の名称となりました。日本センド派遣会は、生まれてまだ10年。歩み出したばかりの団体ですが、日本センド派遣会の発足そのものが、戦後日本でのセンド国際宣

教団の働きの実ということが出来ます。

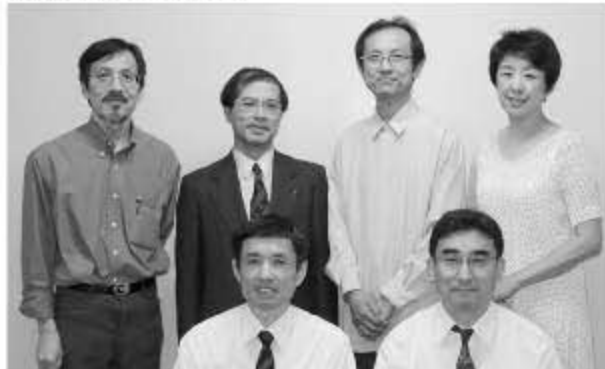
日本センド派遣会のこれまでの派遣実績は、2000年～2004年、フィリピンへ派遣した鳥先克臣師ご夫妻です。ご夫妻は、首都マニラにあるアジア神学大学院（ATS）という神学校で聖書言語や旧約学を教える奉仕をしました。アジアの諸国、さらに欧米からも集まってくる多くの学生に教え、それぞれの国に主の働き人として送り返す働きは、アジアの一員である日本から派遣された宣教師の働きとして喜ばしい特権でした。

残念ながら、その後、派遣宣教師のない状態で現在にまで至っています。経済的にもまだ「よちよち歩き」の団体です。しかし、主の宣教命令に応答し、これからどのように日本の働き人と宣教地の必要とを結びつけていくかが問われていると感じています。働き人の積極的な掘り起こしの段階から取り組んでいきたいと考えています。

どうか、日本センド派遣会のためにお祈り下さい。（高橋記）

2009年度役員紹介

- 会 長：横山基生（在欧日本人宣教会）
 副 会 長：福井 誠（日本バプテスト教会連合 世界宣教部）
 書 記：関 昌 宏（チャーチオブゴッド 国外宣教部）
 会 計：酒井信也（OM日本）
 JEA 担当：永井敏夫（日本ウィクリフ聖書翻訳協会協力メンバー）
 オブザーバー：具志堅聖（JEA）
 事務局担当：坂庭裕子



発 行：海外宣教連絡協力会
 発 行 者：横山 基生
 住 所：〒244-0842
 横浜市栄区飯島町 2441-10
 Tel.045-891-7769
 Fax.045-894-2121
 e-mail: jomaoffice@yahoo.co.jp
 ホームページ: www.joma.mydns.jp
 郵便振替：海外宣教連絡協力会
 00160-7-106631

— JOMA加盟団体 —

- LM1 世界宣教会
- OMF インターナショナル日本委員会
- OM日本
- アンテオケ宣教会
- インマヌエル総合伝道団 国外宣教局
- チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部
- 基督兄弟団海外宣教委員会
- 在欧日本人宣教会
- 東京フリーメソジスト教団宣教委員会
- 南米宣教会
- 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部
- 日本イエス・キリスト教団
- 日本ウィクリフ聖書翻訳協会
- 日本センド派遣会
- 日本バプテスト教会連合
- 日本ホーリネス教団
- 東洋ローア・キリスト伝道教会海外宣教委員会
- ミラノ宣教支援会